

富山で夏の思い出の記事を読んで

入善町立入善西中学校一年 荒田明香里

私は、この記事を読んで、富山のおもてなしの姿勢に感動した。そのおもてなしを、夏休みに富山県に滞在した福島県の家族はどう受け取ったのだろうか。

四年前に見た東日本大震災の映像は今でもよく覚えている。いくつものビルがぐらぐらとゆれ、道路や家はあきなくくずれていた。その後、原子力発電所の問題もあった。

被災者の方が受けた衝撃はどれほどのものだったのだろうか。私には想像できない。

この記事を読んでいくと、「家族には放射線量を気にせず食べられる」とシイタケが人気だったとある。この四年間、住む場所や食べる物の放射線量にずっと気を使っていたのだらうと思った。とても疲れるはずだ。だから、この文を読んだとき、「本当に富山に来てもらってうれし」と純粹に思った。

富山には自慢の新鮮な野菜や米が豊富にある。

富山の自慢のものを県外の人にもおしみなく  
提供するのは、とても良いことだと思っ  
た。さらに富山県民としてうれしいと思  
った。一丈がある。一地元のスシ店は子  
どもたちになりずしをサービスし、近  
くの宿泊施設は無料で入浴できるよ  
うにしてくれたという。という文。地  
元の人もこの事業に快く協力して  
いるのだと感動した。地域の方のつ  
なかりが見えてきて、心が温かくな  
った。私は、富山らしい素敵なおも  
てなしたと感じた。

この事業に参加した福島県の家族は  
どうだろうか。震災で家が壊れてしま  
った家族、放射線量が多く家に帰るこ  
とのできない家族もいるかもしれない。  
しかし、この富山のおもてなしで、少  
なくとも食材の放射線量のこと  
は志れられているのではないか。つ  
らいと思ふことか一つ減っているの  
ではないか。もしそうだとしたら、私  
は富山県民としてとてもほこらしい。  
この事業は、自分も相手も良い  
気持ちになると思った。

福島県から来た家族には、夏休みの間、思  
う存分富山でリフレッシュしてもらいたいと  
思った。おもてなしもたくさんしているので、  
楽しい思い出が数え切れないほどできたらいい  
なと思った。

事業に参加した人の話を読むと、きちんと  
「おもてなしの心」は伝わっていることが分  
かった。そして、私も「おもてなし」を大切  
にしたいと思った。旅行者でなくても良い。  
今の私にできるおもてなしは何だろうか。

例えば家に親戚の人や家族の知り合いなど  
が来たとき。まずは笑顔で出向かえたい。元  
気良く「こんにちは」と言うだけでも、来た  
人は印象を良くしてくれると思う。さらにお  
茶を出したり、聞かれたことにはきちんと応  
えたりする。当たり前前のことだけれど、一つ  
一つきちんとすれば、お客さんに気持ちよく  
帰ってもらうことができると思う。

実際私も、友達の家で遊んだときに、家族  
の方から「いらっしやい」と笑顔で言われて、

# 山で夏の思い出



## 呉羽・八尾に滞在

夏休みに福島県の家族に富山でリフレッシュしてもらう事業「呉羽のおうち」が、富山市西金屋のくれば山荘保養館で行われている。新鮮な野菜の提供や流しそうめん準備など、ボランティアが心を込めてもてなしている。

「呉羽のおうち」は、東日 でき、自炊も可能。富山市八尾 本大震災の被災者を支援する 地域の2カ所でも受け入れ、 県内の団体「東北AID(川 合わせて20家族81人が申し込 淵映子代表)が昨年に続いて んだ。参加者は射水市の太閤 実施。7月下旬から8月23日 山ランドのプールや高岡市の までの期間で、福島県内の小 雨晴海岸へ出掛けるなど、思 学生や幼児と親を対象に企画 い思いに富山滞在を楽しんで した。自由な日程で安く宿泊 いる。

メンバーは、到着した家族 にウエルカムパーティーとし て、農家らが寄付してくれた 野菜を使ったバーベキューを 用意。家族には「放射線量を 気にせず食べられる」とシイ タケが人気だった。竹で作っ た装置で流しそうめんを始め

とてもうれしいと思っ たことがある。そのと きに、「私は家族の方にきちん と受け入れて もらえているのだな」と、胸 が温かくなっ た。おもてなしは、する人の「あなたを歓迎して います」という意思も示されるんだなと感じ た。とても素敵なことだと思っ た。

この事業に協力した農家の方、企業や商店 の方のおもてなしの心は、きつと福島県から 来た家族の方に、夏の思い出とともにずつと 残ると思う。そして、この記事を読んだ私に

も感動を与えてくれた。私もそんな感動と温 かさを届けられる人になりたい。

ると、子どもたちが大喜び。 周囲が食べ過ぎを心配するほ ど次々に「そうめんをすすぐ」、 プチトマトを水に流して笑顔 を見せていた。

県内各地の農家から米やス イカの提供もあり、滞在中に 味わってもらったほか、土産 として持ち帰ってもらってい る。企業や商店に協力を呼び